



## 平成17年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成16年7月28日

上場会社名 沖電気工業株式会社 (コード番号：6703 東証第1部)  
 (URL <http://www.oki.com/jp>)  
 問合せ先 代表者 代表取締役社長 篠塚 勝正 (TEL：03-3501-3111)  
 責任者 広報部長 森 淳

### 1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無： 無  
 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無： 無  
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無： 無

### 2. 平成17年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成16年4月1日～平成16年6月30日） （百万円未満切捨）

#### （1）経営成績（連結）の進捗状況

	売上高		営業利益		経常利益		当期(四半期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年3月期第1四半期	141,972	27.0	2,107	-	3,147	-	2,616	-
16年3月期第1四半期	111,812	15.3	13,084	-	14,101	-	11,063	-
(参考)16年3月期	654,214	11.7	21,606	-	12,459	-	1,328	-

	1株当たり 四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
17年3月期第1四半期	4.28	-
16年3月期第1四半期	18.08	-
(参考)15年3月期	2.17	2.17

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

#### 当期の概況

当四半期の日本経済は、輸出の増加や設備投資の回復に加え、企業業績の改善が家計にも好影響を与え始め、またデジタル家電などを中心に個人消費も緩やかに増加の傾向を示すなど、全体として堅調に推移しました。

当社の事業領域においても、金融機関による投資回復、オフィス向けカラープリンタ需要の拡大、通信キャリアの地域IP網の拡充、半導体市場の好調など、おおむね順調な事業環境でした。

このような市場環境のもと、当四半期の連結売上高は前年同期比27%増の1,420億円となりました。連結営業損益は21億円の損失でしたが、前年同期の131億円の損失から110億円改善しております。収益改善の要因は、一昨年来の事業構造改革の成果や、注力事業分野へのリソース集中による売上高の増加などによるものです。連結経常損益につきましても同様に、前年同期141億円の損失から110億円改善し31億円の損失となりました。連結四半期純損益は26億円の損失で、前年同期の111億円の損失から85億円改善しました。

事業セグメント別の状況

【情報セグメント】

業務改善効率に対応した事務集中システムなどへの金融機関の投資拡大により金融ソリューション事業の売上が拡大したことに加え、欧米を中心としたオフィス向けカラープリンタのシェアが引き続き拡大していることもあり、外部顧客向け連結売上高は前年同期比17.3%増の676億円となりました。営業損益は9億円の損失でしたが、売上高の増加、海外生産の拡大や調達コストの低減によるコスト構造の改善が寄与し、前年同期から17億円改善しました。

【通信セグメント】

映像配信などの新しいブロードバンドIPサービスやIP電話サービス拡大に伴って通信キャリアの地域IP網の拡充が進んだほか、企業のVoIPシステムの導入などにより、外部顧客向け連結売上高は前年同期比38.6%増の230億円となりました。営業損益については2億円の損失となりましたが、売上増加が寄与し、前年同期から25億円改善しました。

【電子デバイスセグメント】

半導体市況が継続して好調であったことに加え、当社が得意とするPHS用ベースバンドLSI、携帯電話向け音源LSI、液晶パネル用ドライバLSIなどの「パーソナル&モバイル」市場向け商品の売上拡大により、外部顧客向け連結売上高は前年同期比38%増の376億円となりました。営業損益は増収に伴い、前年同期から60億円改善し12億円の利益となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第1四半期	583,449	110,479	18.9	180.63
16年3月期第1四半期	606,443	92,451	15.2	151.12
(参考)16年3月期	609,560	110,499	18.1	180.66

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	10,450	9,029	8,378	51,366
16年3月期第1四半期	973	3,002	4,821	30,321
(参考)16年3月期	92,269	19,202	43,564	58,075

総資産等の状況

前年度末に対して総資産は261億円減少しましたが、株主資本がほぼ横ばいだったため、株主資本比率は18.9%と0.8ポイント上昇致しました。

増減の主なものは、流動資産では棚卸資産が133億円増加、受取手形及び売掛金が396億円減少しており、固定資産では有形固定資産が5億円増加、投資有価証券が35億円増加しております。

また、負債は261億円減少しておりますが、主なものは、支払手形及び買掛金の99億円の減少であります。なお、有利子負債につきましては、前年度末より80億円減少し、2,834億円となっております。

キャッシュ・フローの状況

当四半期の営業キャッシュ・フローは、当期純損益の大幅な改善、運転資金の圧縮などにより、前年同期の10億円の支出に対し114億円改善し、104億円の収入となりました。

投資キャッシュ・フローにつきましては、設備支払高が増加し前年同期の30億円の支出に対し60億円悪化して、90億円の支出となりました。

営業キャッシュ・フローと投資キャッシュ・フローとをあわせたフリー・キャッシュ・フローは前年同期の40億円の支出に対し54億円改善し、14億円の収入となりました。

財務キャッシュ・フローは、短期借入金の減少30億円、長期借入金の返済53億円等により、84億円の支出となりました。

その結果、現金同等物等の四半期末残高は前期末581億円から67億円減少し、514億円となりました。

(3) 平成17年3月期の連結業績予想(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
<b>【今回予想】</b>					
中 間 期	310,000	0	4,500	6,000	9.80
通 期	680,000	29,000	20,000	10,000	16.33
<b>【前回(4/27)予想】</b>					
中 間 期	290,000	2,000	6,500	6,000	9.80
通 期	680,000	29,000	20,000	10,000	16.33
<b>【参考】前年通期実績</b>	654,214	21,606	12,459	1,328	2.17

[業績予想に関する定性的情報等]

日本経済におきましては、企業のみならず個人消費においても、景気の堅調な回復が続くものと見られます。当社の平成17年3月期中間期業績予想につきましては、金融ソリューション事業、キャリア向けIPネットワーク、半導体事業において売上高の増加が見込まれるため、上記の通り4月27日の公表値から修正いたします。

平成17年3月期連結業績予想につきましては、下半期における情報通信分野での価格競争、半導体での需要動向など不透明な要素が見込まれるため、現時点では4月27日の公表通りとさせていただきます。

以 上